

令和3年度第2回福岡県医薬品適正使用促進連絡協議会における委員の御意見

(1) 福岡県における取組について

協議会委員	御意見	回答
寺澤委員	テンプレートを使用した、県内種々の医療・介護機能を持つ施設での処方適正化アプローチ事業は有意義です。特養での結果が期待されます。	御意見ありがとうございます。

(2) 令和3年度ポリファーマシー研修会について

協議会委員	御意見	回答
寺澤委員	医師とともに看護師の参加も望まれます。介護施設などの高齢者施設では薬剤の取扱いに看護師の役割が大きいと思います。	御意見ありがとうございます。多職種に参加をいただけるよう、引き続き、周知方法等の検討を図ってまいります。
福田委員	とても勉強になるので、医師・薬剤師以外の職種の参加も増加すると思います。	

(3) 令和2年度お薬手帳の活用促進事業の効果解析について

協議会委員	御意見	回答
寺澤委員	やはり重複服薬の防止には、保険者から被保険者への適度な働きかけが効果が大きいと思われます。現状では薬手帳の1冊化も重要です。	御意見ありがとうございます。今後の参考とさせていただきます。

(4) 処方適正化アプローチ事業について

協議会委員	御意見	回答
寺澤委員	患者の安心・安全な医療にとって重要な取り組みであり引き続き実施が望まれます。	御意見ありがとうございます。
福田委員	薬剤師の方が施設入所者の情報を得ることが難しいようなので、施設側がポリファーマシーについて理解し働きかける必要があると感じます。	御意見ありがとうございます。今後の周知啓発の参考とさせていただきます。

(5) 来年度の取組(案)について

協議会委員	御意見	回答
大戸委員	<p>上記の各項目について、概ね順調に展開されているように思います。 意見ではなく、コメントです。 すでに普及・浸透を図るため、薬剤師会、医師会、研修会、SNS、マスコミ、研修単位認定など広報活動をされているかと思えます。 さらに普及・浸透を図るには、重点研修会・施設・組織などに焦点を当て、キャラバンを派遣するなどの対応も必要ではないでしょうか。</p>	<p>コメントいただきありがとうございます。 効果的な普及啓発方法について、引き続き、検討してまいります。</p>